



のある発想。一緒に取り組みたい。

雲田部長

②3年ほど前から地域と教育現場のつながりを持たせるコミュニティスクールの取り組みを行っている。サミットについては部内でしっかり相談したい。

柳川部長

②100歳サミット素晴らしいアイデア。100歳となれば、車の運転はされていないと思う。何をするにしても移動手段が必要。車が運転できない人が今後増えてくる。免許返納後の公共交通の在り方を自分事として関心を持ってほしい。

○

①昭和時代の町長は工場誘致に一生懸命。養父市の人口減少は行政だけが頑張ってもなかなか解決しない。働く場所が必要。養父市に働く場所ができないか。

②八鹿病院の分娩が中止になった。中間報告等情報提供をいただきたい。いつごろまでに医者確保するか。

③河川の木が大きくなっている。気になる。

市長

①工場誘致に努力している。養父市には大規模な工場団地はできていない。土地の広さが問題。労働力をどう確保するかということも課題である。

今でも、大規模ではないが、キラッと光る企業誘致・事業展開をしている。大屋の工業団地の拡張の話がある。栗ノ下地区にウイスキーの醸造所ができる。それなりに雇用の場ができています。

デジタルの時代。ワーケーション。養父市で大都市と同じような仕事ができる時代。ワーケーションの企業誘致も考えている。

働く場所は実はあるが、若者が働きたい場所が少ないときいている。マッチングの問題でもある。努力は続けている。

②八鹿病院の分娩昨年12月から停止しているが、産前産後の検診は行っている。

常勤の産婦人科を探しているが、なかなか見つからない。情報は出しているが、出し方を少し工夫していく。

③河川の木、養父土木事務所にしっかり呼び掛けていく。予算や順番もあって、すぐに実現は出来ないかもしれないが、呼び掛けていく。

柳川部長

①土地が少なく、大規模な企業誘致は難しいが、廃校活用も積極的に行ってきた。近年で言えばトライアル、福山通運などが新たに進出を頂いている。

インターチェンジ周辺で、面的な土地利用の方向も考え行きたい。

②まち整備部として養父土木事務所に呼び掛けていく。

○

人と環境にやさしい農業戦略事業について、オーガニックビレッジ宣言をしたが、

政府としては化成肥料を減らして、有機堆肥を活用した場合補助金ができると聞いた。協議会等を立ち上げる必要もある。このような国の施策に対して、市としてなにか方針があるか。

市長

有機の里づくりということで、市は安心安全な食の提供を心がけてきた。養父市では畜産の糞尿を堆肥化して栽培を回している。畜産廃棄物を優良な堆肥にして農地に戻し健康な農地を作って安全な農産物を提供していきたい。

協議会の件。既存協議会を活用していく。要件が合わない場合は、新しい協議会をつくることも考えていく。国の施策にたいしては、その考えに同感し進めていきたい。

養父市では下水道サーベイランスで、コロナの感染者を調べる取り組みをしている。実は下水や汚泥は、リンなどを含み大きな可能性を秘めており、有機肥料に有効といわれている。汚泥をどう有効活用していくか。総合的に無駄のない有機の環境づくりをしていきたい。

○

ほっとステーションについて、現場にかかわっている職員が子供のことを考え真摯に取り組んでおられると聞いている。

今後のほっとステーションをどのように発展させようとしているのか。

そこに市民の参加はできるのか。

今後、市民が意見を言って、その意見は反映されるのか。

市長

集団生活になじめない子供たち、一般的に発達障害といわれる子供たちが増えている背景がある。第3の居場所（ほっとステーション）は、その子供たちの未来のために必要な施設と考えてきた。

B&G財団の全国大会に出たときに、第3の居場所づくりの設置補助金があり、3年間、施設運営費も補助があるとの情報を得て手を挙げた。

施設の設置により、子供たちの能力を伸ばしていきたい。また、保護者の不安解消など支えになるものと考えている。

学校に行けなくても、ほっとステーションに通いながら卒業できるしくみを作った。多様な子供たちに対応できるような、スタッフをそろえていきたいし、多様な能力を持つ市民の参画も願いたい。連携している大学にお願いしていろんなメニューもそろえていきたい。

子供が主役。ほっとステーションは、子供真ん中主義を具現化していく施設。

市民から素晴らしいご意見・ご提案があったら反映させる。

雲田部長

ほっとステーションは、6月に開館し、教育現場で経験がある3人のスタッフで運営している。

これまでは、養父公民館の一室を活用していたが、今回環境の良い場所を作った。来年度以降も、ほっとステーションに子供たちが来やすい環境を作っていきたい。いろいろな人の力を借りていきたいので市民の参画も願いたい。

○オンラインでの市民質疑①

全但バスの運休が多い、湯村-神戸線が運休となった。養父市として対応できることはないか。

市長

地域公共交通、路線バスを使う人も少なくなっている。赤字部分は行政が補填している。多くの方に乗ってもらう工夫が必要になっている。

柳川部長

湯村-神戸線の運休。運転手がないことが問題となっている。早急に運行体系を整えなければならない。ドライバーが不足している中で、今後は、大型バスと中型小型バスとの使い分けやデマンド運行などきめ細かい公共交通が樹立できる方法を皆さんと考えていきたい。

○オンラインでの市民質疑②

マイナンバーの取得率が全国トップクラス。市民にどんなメリットがあるのか、どんなリスクがあるのか。

高齢者向けのデジタルリテラシーを高める研修は行っているのか？

高いデジタルスキルを持つ会社を退職された高齢者などの市民の活用などは、社会的処方などにも繋がるのではないだろうか。

市長

マイナンバーカードをデータ連携の基盤として、行政サービスを付加することを目的としている。行政サービスはこれまで、窓口での手書き申請が多かった。今は住民票の交付などがコンビニでできるようになっている。職員の業務量の軽減で、新たな質の高いサービスができるようになってくる。

市民一人ひとりのデジタルの能力を高める必要がある。デジタルリテラシーが差になってはいけない。高いデジタルスキルを持つ、会社を退職された方になどに講習会を行ってもらうことも、地域の向上につながる。

安達課長

デジタルファースト課の出前講座にもスマートフォンの使用方法やオンライン申請の操作方法を説明するメニューがあるのでご活用いただきたい。

以上